

【第1号議案】

令和5年度事業報告

1 運営委員会の開催

- ・第1回 令和5年9月1日（金）開催
- ・正副委員長等を選出し、会則、予算案、事業計画を承認

2 信州学び円卓会議の開催

第1回

日時 令和5年9月1日（金）13:20～16:00（県立長野図書館）

目的 テーマへの思いの共有

議論のまとめ

- ・教育に関するこれまでの当たり前を変えていくこと
- ・学校の自治、先生方の自由度を保障するため、教育システムのあり方を問い直していくこと

第2回

日時 令和6年2月1日（木）13:00～15:00（信濃教育会館）

目的 県民意見交換会の振り返り及び今後検討すべき方向性の議論

議論のまとめ

- ・教育に関する制度や現在の取組を共に学びながら方策の検討を進める
- ・人口減少や少子高齢化の課題に直面する中山間地域をモデル的に対象として、地域の抱える課題に取り組む

3 県民意見交換会の開催

様々な主体との意見交換会を7回開催

開催日	テーマ
9月23日（土）	次世代につづく中山間地域の学びづくりとは
10月18日（水）	子どもの居場所と学びの継続について
10月25日（水）	中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方
11月14日（火）	教員が理想とするこれからの長野県での学びとは
12月6日（水）	私たちが考える理想の『学びの環境』とは
1月17日（水）	教員の魅力と私たちが考える教育の未来
3月7日（木）	すべての子どもを包み込む学びの環境とは

※詳細は別紙①参照

4 その他

- ・円卓会議等での議論の内容をnote（メディアプラットフォーム）で発信
- ・意見交換会に出席できなかった県民から、同テーマへの意見をHPで募集

目的

県民一人ひとりが子どもたちにとって最適な学びのあり方について自分事として考える**機運の醸成を図るため、県内各地の多様なフィールドにおける学びの当事者との意見交換を実施**する。

R5年度開催実績

円卓会議での議論材料とするため、児童・生徒、教員、フリースクール関係者等の**様々な主体と「理想」と「カベ」について意見交換**を実施。

回	日時・フィールド	テーマ	対象	意見概要
1	R5.9.23 (根羽村)	次世代に続く中山間地域での学びづくりとは	根羽村、その他中山間地域での学びに関心・関わりのある方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校を地域に開き、大人も学校で児童生徒と共に学ぶ環境が作れないか ・ 根羽村では小規模校の特性を活かして学年を超えた、自由度の高い学びを行うことができるのではないか ・ 中山間地域において、先生たちがやりたいことをできるようになるためには、適正な教員配置などの課題がある
2	R5.10.18 (フリースクール)	子どもの居場所と学びの継続について	居場所・フリースクール関係者、児童・生徒、保護者、教員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、フリースクール関係者、保護者、行政がもう一歩踏みこんで話せる場があるとよい ・ より多くの保護者や生徒に対して、「学校に行かなくても大丈夫」という価値観を広げ、色々な選択肢があることを知ってもらうが必要 ・ 学校以外の学びの場、支援機関の認知度が低く、情報発信が必要
3	R5.10.25 (松本県ヶ丘高校)	中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方	中学生、高校生、保護者、教員等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員も生徒も自由度が少なく、主体的に取り組めることが限られている ・ 学校は自分の「好き」を突き詰められる場所であり、それぞれの夢や将来に合った授業を取り入れてほしい ・ 生徒と教員がじっくり話せる環境が重要
4	R5.11.14 (信濃教育会館)	教員の理想とする、これからの長野県での学びとは	教員、その他の教育関係者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達が興味関心を持ち自発的に学ぶことを実現するには、教材研究をする時間の不足、保護者への対応に追われる、教員の人数不足、へき地の学校への教員配置等の課題がある ・ 子ども達が学びたいことに対して教師が伴走して支えることが理想ではあるが、受験等保護者の関心と両立できるか疑問 ・ 教師や子どもたちが失敗を恐れずに様々なことにチャレンジできる機運の醸成が必要
5	R5.12.6 (軽井沢風越学園)	私たちが考える理想の「学びの環境」とは	軽井沢風越学園の生徒、教員、保護者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が自分で学びたいことを見つけ、異学年で共に学びながら思ったことを発言し、互いに肯定し合う環境が重要 ・ 地域の大人と関わり、大人と子どもという枠に縛られずに互いに学ぶことができるとよい ・ 学びの場を学校に限定する必要はなく、一人ひとりの得意分野が評価される仕組みがあるとよい
6	R6.1.17 (信州大学教育学部)	教員の魅力と私たちが考える教育の未来	大学生、大学院生、教員、その他の教育関係者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教員になりたい」と言うと色んな人に大変だよと止められる。学校現場の大変さを伝えすぎると教職離れがすすむのでは ・ 初任者であることへの不安。やりたいことはあるがどうしたら初任者の壁を越えられるか ・ 時間割のシステムが当たり前になっているが、子どもたちが授業を選んで学べるとよい
7	R6.3.7 (特別支援学校)	すべての子どもを包み込む学びの環境とは	特別支援学校生徒、保護者、教員その他の教育関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の視点だけで子どもの学びの環境を決めるのではなく、子どもの視点も取り入れて一緒に考えることが重要。 ・ 子ども自身が学びの環境や自分の居場所を「選択できる」こと、そのために地域や社会が受け入れる体制を整え、選択肢を増やすことが重要。 ・ 選択肢を増やすためには、情報提供体制や学校の人的・設備的サポートの充実が必要。